

NEWSLETTER



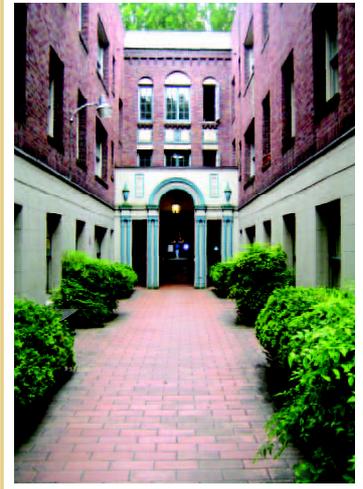
同済大学(中華人民共和国)

平成18年3月16日締結
中国上海市にある、国家教育部直属の重点大学。
1907年設立の同済独文医学堂を前身とする中国
で最も歴史ある、名門大学の1つ。「同済」は「心を
合わせて助け合う」を意味する。



ランボン大学(インドネシア)

平成18年4月25日締結
1965年設立の8学部からなる国立の総合大学で、24,000人
の学生数を有する。スマトラ島最南端のランボン州に位置し、熱
帯特有の快適な自然と多様な民族と文化に包まれた環境にある。



ポートランド州立大学(アメリカ合衆国)

平成18年6月19日締結
オレゴン州ポートランド市内に位置する、文系・社
会系学部を中心とする都市型の総合大学。平成
18年9月、岐阜大学学生のためのサマースクール
が開講された。

岐阜大学の国際交流



岐阜大学国際交流委員会
委員長(副学長)

森 秀 樹

岐阜大学の国際化に際して重要なことの一つは職員におい
ても学生においても英語力の向上であるが、もっと重要なこ
とは多数の諸外国の文化や伝統を国際交流を通してより深く
理解する姿勢である。日本文化は地理的な状況もあり、比較
的他国と交わることなく、進化・発展をしてきたと思われが
ちであるが、日本文化の形成にも長い国際交流の歴史が関与
している。トンボなどの言葉はもともとサンスクリット語に
由来すると言われているし、かなりの日本語には南インドの
タミル語との共通性があると言われている。バングラデシュ
やイランからの留学生と話していると、驚くことに彼らの言
語の一部が日本語の一部と極めて類似している事実に気がつ
く。日本語の「ちゃらんぼらん」と言う言葉に酷似せるもの
がイランにおいてもほぼ同じ意味で使用されているそうであ
る。アジア言語の発生と伝搬に関しては古くより諸説が唱え
られているが、留学生との関わりから得た知識に基づいても
インド発のサンスクリット語のアジア東西方向への伝搬は日
本の言語文化にとっても意義深いものと考えたい。

さて、岐阜大学の交流協定大学は一番新しい内蒙古大学(中
国)を入れて、32を数える(13ヶ国)。当然、交流が活発な
交流大学と比較的そうでない交流大学があり、後者のケース
ではリエソンの先生方に対応の努力をお願いしている。岐阜
大学には毎年夏になると協定大学である Lund 大学(ス
ウェーデン)から多数の学生が日本語研修の目的で来る。彼
らがキャンパス内を岐大生と共に日本語を話しながら自転車
で走っているのを見ると、思わずにっこりしてしまう。これ
からもベトナムからのツィニング・プログラムや欧米諸国か
らのスタディー・アプロード的なプログラムなどによる短期・
長期留学生の受け入れが増加することが予想される。暖かく
迎えたいものである。海外からの大学院生の受け入れは研究
者交流と共に岐阜大学の研究面での活性化に欠かせないもの
となっている。毎年卒業式(連合大学院を含む)に出席する
海外からの大学院修了者の真摯な表情を見てみると、今後の
母国での活躍を祈らずにはおられない。今のところ、本学の
学生の海外への留学は欧米が主である。学生諸君にもっと中
国を含むアジア諸国へ赴き、遅くとも積極的なアジア諸国の
学生と交流を深めることを望みたい。現在、環境問題一つを
取り上げても、大きなグローバルな課題が多数存在している。
岐阜大学としても、さらに資源を掘り起こし、戦略的な支援
体制を充実させ、国際連携研究とともに多方面の国際交流を
積極的に推進したい。

外国人留学生からのメッセージ

工学部生命工学科 4年生

ゲン コウ レン
玄香蓮 (中国)



海外留学—
たくさん笑って、たくさん泣いて

私は2001年の10月に日本に来ました。高校を卒業したばかりの当時の自分、海外留学の決意をするとき、どれだけ勇気があったのだらうと思いますが、もう5年と言う月日が経ちました。

今、日本にだけではなく、海外留学をしている人、少なくありません。たぶん、みんなが大変だったと思われることが言葉の壁だったのではないのでしょうか。もちろん、中学、高校で6年間も日本語の勉強をしてきた自分でしたが、最初は予想以上の苦労をしました。相手の言っている意味は大体分かりますが、自分の意思をきちんと伝えないとき；電車やバスに乗って、案内の言葉を聞き取れなくて、泣きそうになったとき、いろいろと今、考えたら、私に貴重な経験になりました。それは、今の自分に成長させたものですから。どんな問題でも正解は複数あると思い、失敗を怖がらず、最後まで試してみても失敗しても悔いのない人生の道を歩む自信を身につけることが出来たのです。

苦労話だけではありません。日本語学校を卒業し、岐阜大学に入学してから、積極的に国際交流活動を進んでいる学校側のお陰さまで、たくさんの友たちが出来ました。その中には同じく中国の友たちがいると言えば、韓国、インド、エジプトから来た留学生とも友たちになりました。お互いに自分について語ったり、自分の国と日本について語ったりしながら、盛り上がったこともあります。

今は四年生で卒業研究と卒論で忙しくなりましたが、その忙しい日々の中でも研究室の皆さんと一緒に勉強や実験、パーティーをするなりと、貴重な一分一秒を楽しんでいます。

留学は希望に満ちたものでありますが、反面精神的、経済的な不安、負担も伴うものでもあります。留学をしている皆さん、思う通りに行かないとき、退屈だと思わないで、自分を知るいいチャンスだと信じると、人生はもっと生き生きとしてくるかも知れません。

辛いときにはたくさん泣いて、楽しいときにはたくさん笑って、目いっぱい感動した人には魅力があると、私は思いました。

(原文のまま)



外国人留学生からのメッセージ

農学研究科生物生産
システム学専攻 2年生

テイ グン
鄭軍 (中国)



様々な出会いを通じて

三年前、中国で留学の準備をしていた頃、日本で一体どんな生活になるのか、はっきりと予想することはできませんでした。ただ、私にとって大きなチャレンジだということはわかっていました。今年で私の日本留学3年目を迎えました。学問だけでなく、日本の社会や文化や生活など、いろいろな面についてたくさんの思いが残っています。

岐阜大学での3年間の大学院生活は私にとって非常に有意義なものでした。本業である研究ではその道のもっとも優れた研究者の指導を受け、生活においても奨学金のおかげであまり大きな心配をせずに日本の生活を楽しむ余裕がありました。またその生活の中で大学の先生、大学院の学生(日本人・中国人・ベトナム人など)との交流を通して、いろいろな人と出会いました。これらの人間関係は中国にだけいたのでは絶対に得ることのできない私にとってこの留学生活におけるもっとも大きな収穫であったと言っても過言ではありません。

また3年間日本で過ごせたことは私自身にとって大きな自信になりました。どんな人であれ外国で生活することは大きなストレスを伴うものです。その中で生活することができたことは、自分自身のこれからの大きな支えになることを確信すると同時に、一人ではこの留学を成し遂げることは不可能であったというあたりまえのことから、支えてくださった多くの人々への感謝の気持ち、また人間の優しさといったものの重要性を強く感じました。

(原文のまま)



● 留学体験記

岐阜大学農学部生物資源生産学科
森林・緑地管理学講座 森林生態学研究室(卒業)

チュラロンコン大学に留学

江間 あゆ美

タイ留学体験記



はじめに、岐阜大学国際交流支援団体の皆様に、留学奨学金を援助していただいたことを深く感謝いたします。

2005年4月から9月までの6ヶ月間、タイ王国バンコクにある、チュラロンコン大学理学部に在籍していました。他の学生たちと全く同じように、大学の近くのアパートで暮らし、多くの友人と出会うことができました。その間、特別クラスでタイ語と文化を学び、一般授業を受講するだけには留まりません。卒業研究のテーマを、深く掘り下げることに重点を置いていました。実際、現場に何度も足を運び、調査を重ねることができ、納得のいく論文が書けたことに、満足しています。また、スマトラ沖大地震・津波(2004年12月発生)による、南タイでの被害・回復調査の手伝いのできたことも、大変貴重な経験でした。

この半年間、語りきれないほどの経験が得られたのは、小見山章教授のサポートと、家族・友人の応援があったからです。この場を借りて、お礼申し上げます。



◀津波被害のため、大木がなぎ倒された海岸線

▶遊泳禁止の立て札が立つ、南タイのビーチ



◀アパートの階段にて。同じフロアで過ごした友人達と共に



▶調査地のマングローブにて

● 留学体験記

応用生物科学部 食品生命科学課程 3年

ルンド大学に留学中

杉山 真央

4ヶ月が過ぎて



1日1日はスローライフでも、時が経つのは速く、スウェーデンに来てもう4ヶ月が過ぎてしまいました。

4ヶ月前、不安よりも楽しみが大きかった気がします。しかし実際こちらに来ていざ一人で生活を始めると、スーパーに行ってもスウェーデン語表示なので何が何だか分からない、電車の切符の買い方も分からない、授業も分からない、英語も分からない、スウェーデン語も分からない、何もかもが分からないことばかりでした。しかしそんな時いつも助けてくれたのは、スウェーデン人の友達や、寮のフロアメイト、クラスメイト達でした。私は人間関係に運があるとつくづく感じるほど、素敵な人たちに囲まれて生活しています。特にスウェーデン人の友達は以前から知っていることもあり、よく色々な所に連れ出してくれたり、英語やスウェーデン語の練習相手になってくれたりします。まるで私の留学生生活を充実させようとコーディネートしてくれているかのようです。感謝しきれません。

前半である秋学期には、スウェーデン語とスウェーデンの社会や文化を学びました。そして1月から始まる春学期には、専門である食品科学の授業を受講します。専門をこちらの学生に交じって勉強することはかなりのチャレンジですが、貴

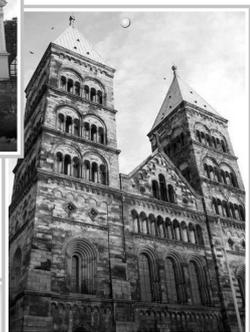
重なチャンスなので、きちんと自分の力になるよう努力したいと思います。

今までの4ヶ月、本当にあっという間に過ぎてしまいました。残りの留学生活もきつとあっという間なのでしょう。留学の半分が過ぎた今、初心をもう一度思い出して、夏に胸を張って帰国できるよう頑張りたいと思います。



◀大学のメインビルディング

▶1145年に建てられた、ルンドの顔とも言える大聖堂。



◀スウェーデンのシンボルダーラヘスト(と足にしがみつく私)

在外研究報告

海外実習を終えて

岐阜大学教育学部教授

小林 浩二



本年度もまた、ドイツの海外実習(授業科目は国際理解実習)を実施した。参加学生は、大学院生、学部学生を合わせて17名。10月22日から11月2日までの12日間で、エルフルト、ベルリン、ボンを巡り、合同ゼミ、エクスカーション(巡検)、ドイツ学生との交流を行った。とりわけ有意義だったのは、エアフルト大学での合同ゼミ及びボン大学での巡検だった。前者のエアフルト大学での合同ゼミのテーマは、「いかに外国語を学ぶか」だった。エアフルト大学のクナップ教授(Prof. Dr. K. Knapp)、ツェルナー教授(Prof. Dr. R. Zöllner)の講演を挟んで、双方の学生合わせて20人余りが、日本、ドイツにおける外国語教育の実態及び自らの英語体験を発表してくれた。学生たちが具体的な資料を示しつつ発表してくれたおかげで、ドイツと日本との外国語教育の違いやその背景が浮き彫りになり、きわめて活発で有意義な議論ができた。つぎに、後者においては、ボン大学地理学教室のテプファー教授(Prof. Dr. Toepfer)の案内で、ボンならびにボンの南30kmのアール川(Ahr)川沿いの地域の巡検を行った。テプファー教授が要領よく説明してくれたため、ボンの景観、機能、構造についての認識を、また、アール川(Ahr)川沿いの地域の観光化やブドウ栽培についての知識を深めることができた。今もって、赤ワインを片手に、

アール川沿いのブドウ栽培や観光化について学生たちと議論したことが忘れられない。

今後、海外実習をさらに活発に、より実りあるものにするにはどうしたらよいただろうか。特につぎの2点をあげておきたい。第1は、事前指導の重要性である。海外実習をより実質的にするためには、あらかじめ、海外実習の目的や意義を学生に周知させておくこと、併せて、学生についての情報を十分得ておくことが不可欠である。巡検の際のマナー等、若干反省すべき点もあったように思う。初めて面識を持つ学生が少なからずいたため、事前指導を十分実施したつもりであったが。

第2は、カウンターパートの協力なしに、実りある海外実習は不可能なことである。今回、エアフルト大学の仁科、ボン大学のテプファー両先生にひとかたならぬお世話になった。言うまでもなく、国際交流を長続きさせるには、まさにギブ・アンド・テイクの関係でなければならない。私自身、エアフルト大学やボン大学の学生達が近い将来、わが岐阜大学に来てくれるよう努力しなければならないことを痛感している。



▲ボンのエクスカーション(巡検)(平成18年10月30日)

第4回日本・ブラジル/ 地域・地球環境国際ワーク ショップ(カンピーナス大学)

工学部教授

守富 寛



第4回日本ブラジルエネルギー環境持続的発展に関する国際ワークショップ(4th International Workshop on Energy, Environment, and Sustainability)を2006年10月26日、岐阜大学小講堂において、カンピーナス大学(ブラジル、協定大学)及び岐阜薬科大学との共催により開催した。同ワークショップは、2003年のカンピーナス大学での開催以後、毎年交互に開催されており、今回は「何ができるか日本とブラジル—エネルギーと環境と健康—」をテーマに、行政関係者、企業関係者、一般市民、教職員学生等267人が参加し、日・葡語の逐次・同時通訳付きで行った。セッション1「エネルギー」では、地球に優しく再生可能なエネルギーであるバイオマスの活用技術および「バイオマスからアルコール燃料戦略」について、セッション2「環境」では、大気・河川・土壌の地域環境問題の昔と今を振り返りながら、両国が抱える課題の糸口について、セッション3「健康」では、食糧事情と医療、廃棄物のリスクについて最新の話題が紹介され、パネルディスカッションを行った。本学学長による特別講演「環境と健康」では、生物の多様性とそのネットワークの維持が環境の維持に繋がると述べられた。岐阜市、名古屋ブラジル総領事、日伯協会岐阜支部、企業、国際協力機構等各方面からの協力により、

カンピーナス大学および国内から6名の教授が招へいでき、通訳により理解し易い講演となったこと等、関係各位に深く感謝し、今後の協定大学との技術提携、共同開発等に繋がることを願っている。



▲ブラジルからの招へい研究者らと共に



▲ワークショップパンフレット



▲招へい研究者による講演

JASSO(独)日本学生支援機構の事業

短期留学推進制度(派遣)の留学情報

この制度は(財)日本学生支援機構が実施する制度で、大学間交流協定に基づき、外国の大学との間で相互に学生を交換する場合に、下記の「資格及び条件」を満たしている者を、日本学生支援機構に奨学金候補者として推薦するものです。渡航時期は、各年4月1日から翌年の3月15日までの間に渡航できる者です。

「資格及び条件」

- ①派遣する期間は、3か月以上1年以内
- ②短期留学生派遣計画に基づき、派遣先大学が受入れを許可する者
- ③学業成績が優秀で、人物等に優れ、JASSOの算出方法による前年度の成績評価係数が一定の水準以上である者
- ④派遣先大学での専攻は問わないが、留学の目的及び計画が明確で海外への留学により、効果が期待できる者
- ⑤経済的理由により、自費のみでの留学が困難な者
- ⑥留学期間終了後、本学に戻り学業を継続する者または本学の学位を取得する者
- ⑦他の団体等から留学のための奨学金を受ける場合は、奨学金の支給月額合計額が8万円未満の者

「奨学金」月額8万円(2006年度現在)

採用人数 平成18年度実績1人

なお、日本学生支援機構の奨学生として不採択になった場合でも自費(私費)により留学することができ、派遣先大学での授業料等の免除と一定数の単位互換が認められます。

- ※1 英語圏へ留学する場合は、申請に当たりTOEFLスコアの提出を要求されますので、事前に受験し取得しておく必要があります。(英語圏への留学は、TOEFL-IBTスコアで61点以上が目安となります。また、TOEFLスコアは次に記載する岐阜大学の奨学金制度に応募する場合にも必要です。)
- ※2 申請手続きは、毎年9月中旬を目途に各学部(研究科)に通知します。申請した結果については、日本学生支援機構から決定通知があり次第通知します。
- ※3 派遣先大学等は、P6の表を参照してください。
- ※4 授業料等相互不徴収制度のある派遣先での授業料は、学術交流協定に基づき支払う必要がありません。
- ※5 留学中の本学の在籍身分は「留学」となり、岐阜大学への授業料の支払いは必要ですが、留学期間が本学の該当学期(4月～9月、又は10月～3月)の全期間を超える場合は、その学期の授業料全額(半期分)の支払が免除されることになりました。

岐阜大学国際交流事業

岐阜大学短期留学(派遣)奨学金

本学の国際交流事業として、学術交流協定を締結している外国の大学へ短期留学を希望する学生(外国人留学生を除く)に対して、選考の上奨学金を支給する制度があります。

この制度は、外国の大学へ短期留学する者の経済的支援を行い、外国留学の機会を拡大することにより、学生の国際交流意識を高め、国際感覚を備えた人材の養成を目的に制定されたもので、概略は次のとおりです。

「資格」次の要件をすべて満たす者

- ①学業成績が優秀で、人格等が優れている者
- ②留学先の大学において、教育を受けるに十分な外国語の能力を有する者(上記※1参照)
- ③帰国後も引き続き本学において学業を継続する意志を有する者
- ④他の機関から留学のための奨学金を受給していない者

「奨学金」月額5万円又は4万円(派遣先大学の国によって異なる)を1年以内

「1年に採用する奨学生」……2人以内

上記※3～※5が同じく該当します。

なお、この制度による奨学生の募集は、毎年9月に日本学生支援機構の奨学生募集と同時にを行います。

研究者交流助成事業(大学院学生の海外派遣)

岐阜大学国際交流事業である学術交流協定大学との研究者交流(派遣・招へい)助成事業は、大学院学生が共同研究のため派遣される場合も助成の対象となっています。募集については例年春頃、学部(研究科)宛に通知しています。

「採用人数」若干名

「支給経費」航空費・滞在費(全額又は一部)

私費外国人留学生就学援助金

岐阜大学国際交流事業として私費外国人、留学生の方に就学援助を行っております。募集は4月以降に行います。

学術交流協定締結 (平成18.12.1現在)

■大学間協定(29大学)

大学名	国名(所在地)	大学名	国名(所在地)
※カンピーナス大学	ブラジル サンパウロ州カンピーナス	※アバテイダンテイ大学	連合王国 スコットランド州ダンディ
※サンディエゴ州立大学	米国 カリフォルニア州サンディエゴ	※内モン古農業大学	中国 内モンゴル自治区フフ・ホト市
※浙江大 学	中国 浙江省杭州市	※シドニー工科大学	オーストラリア ニューサウスウェールズ州シドニー
※広西大 学	中国 広西省南寧市	※バンノン大学	ハンガリー ヴェスプレーム
※電子科 技大 学	中国 四川省成都市	※アンダラス大 学	インドネシア 西スマトラ州パダン
※江 南 大 学	中国 江蘇省無錫市	※バングラデシュ農業大 学	バングラデシュ マイメンシン
中 国 医 科 大 学	中国 遼寧省瀋陽市	※エルフルト大 学	ドイツ エルフルト
※ル ン ド 大 学	スウェーデン ルンド	※吉林大 学	中国 吉林省長春市
※ノーザンケンタッキー大 学	米国 ケンタッキー州ハイランドハイツ	※チェンマイ大 学	タイ チェンマイ
※ソウル産 業大 学	韓国 ソウル	※ダツカ大 学	バングラデシュ ダツカ
※グリフイス大 学	オーストラリア クイーンズランド州サウスポート	※モンクット王トンプリ工科大学	タイ バンコク
※ユタ大 学	米国 ユタ州ソルトレイクシティ	※華 僑 大 学	中国 福建省泉州市
※ユタ州立大 学	米国 ユタ州ローガン	※同 濟 大 学	中国 上海市
※ハノイ工 科大 学	ベトナム ハノイ	※ランポン大 学	インドネシア ランポン州バンダル・ランポン
※ウェストバージニア大 学	米国 ウェストバージニア州モーガントウン	ポ ー ト ラ ン ド 州 立 大 学	アメリカ オレゴン州ポートランド
カセサート大 学	タイ バンコク		

※印は、授業料等相互不徴収制度のある大学を示す。

■部局間協定(10機関)

大学・学部等名	国名(所在地)	協定部局	大学・学部等名	国名(所在地)	協定部局
チュラロンコン大学理学部	タイ バンコク	応用生物科学部	※コンケン大学医学部	タイ コンケン	医学部
慶北大学校農科大学	韓国 大邱市(テグ)	応用生物科学部	※国立全南大学校工科大学	韓国 光州市(クアンジュ)	工学部
コンケン大学農学部	タイ コンケン	応用生物科学部	韓国農村振興省国立農業科学・技術院	韓国 京畿道水原市(スウォン)	応用生物科学部
コンケン大学学部間共同開発研究所	タイ コンケン	応用生物科学部	※シドニー大学文学部	オーストラリア ニューサウスウェールズ州シドニー	教育学部
※浙江大 学 医 学 院	中国 浙江省杭州市	医学部	※ザガジグ大 学	エジプト サガジグ	連合獣医学研究科

※印は、授業料等相互不徴収制度のある大学を示す。

国際交流状況について

1. 岐阜大学外国人研究者受入数

(H18.12.1現在)

	教育学部	地域科学部	医学部	工学部	応用生物科学部	その他	合計
私 費	1	1(1)	6(4)	1	5(2)	0	14(7)
委任経理金・その他	0	0	4(1)	9(2)	7(1)	3(2)	23(6)
合 計	1	1(1)	10(5)	10(2)	12(3)	3(2)	37(13)

1か月以上本学に滞在し、岐阜大学外国人研究者受入れ規則に基づき、受入れを承認された外国人研究者をいう。()内は、女子を内数で示す。

2. 岐阜大学外国人研究者などの訪問数(1月未満)(平成17年度)

	教育学部	地域科学部	医学部	工学部	応用生物科学部	その他	合計
合計	54	3	30	18	5	30	140

1. 以外で、本学に短期間滞在した外国人研究者等をいう。

3. 岐阜大学教職員海外渡航者数(平成17年度)

	教育学部	地域科学部	医学部	工学部	応用生物科学部	その他	合計
出 張	34	21	116	179	75	40	465
研 修	18	11	35	14	2	14	94
合 計	52	32	151	193	77	54	559

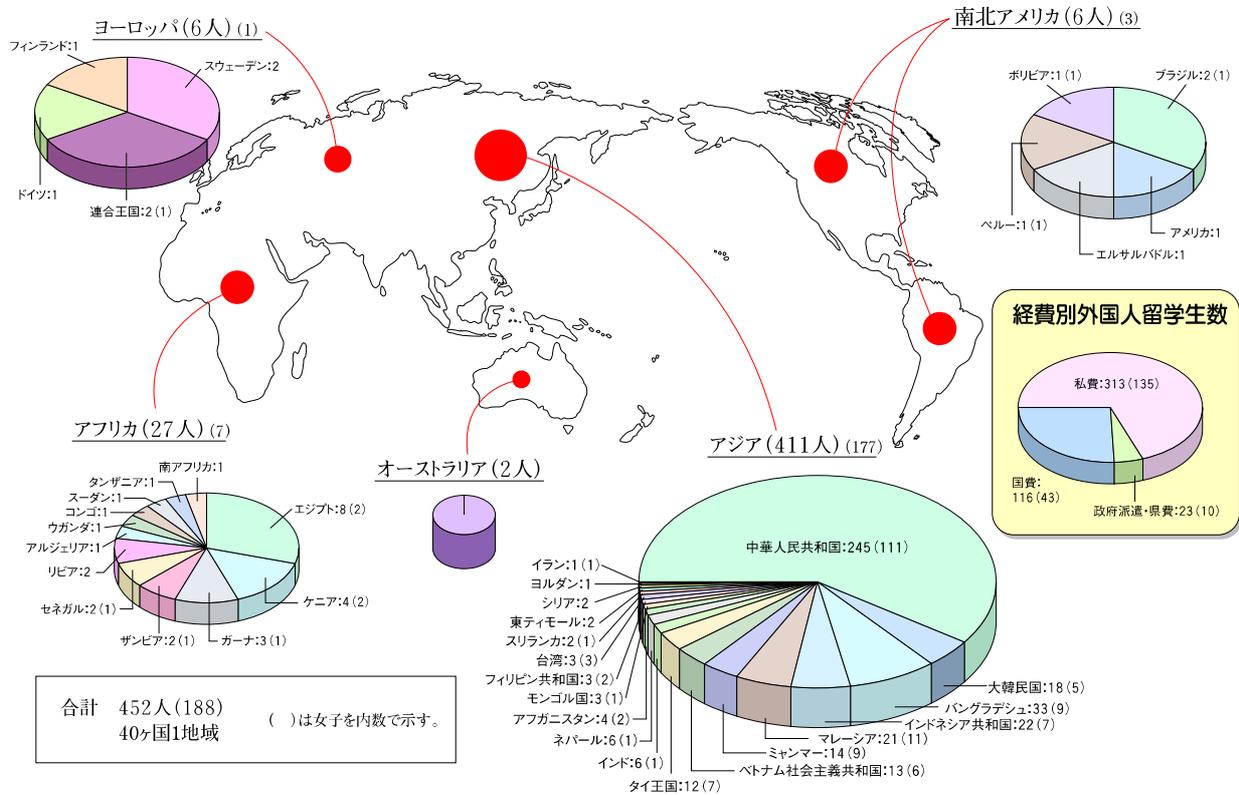
(私事・休職渡航を除く。)

4. 岐阜大学学生の留学者数(平成17年度)

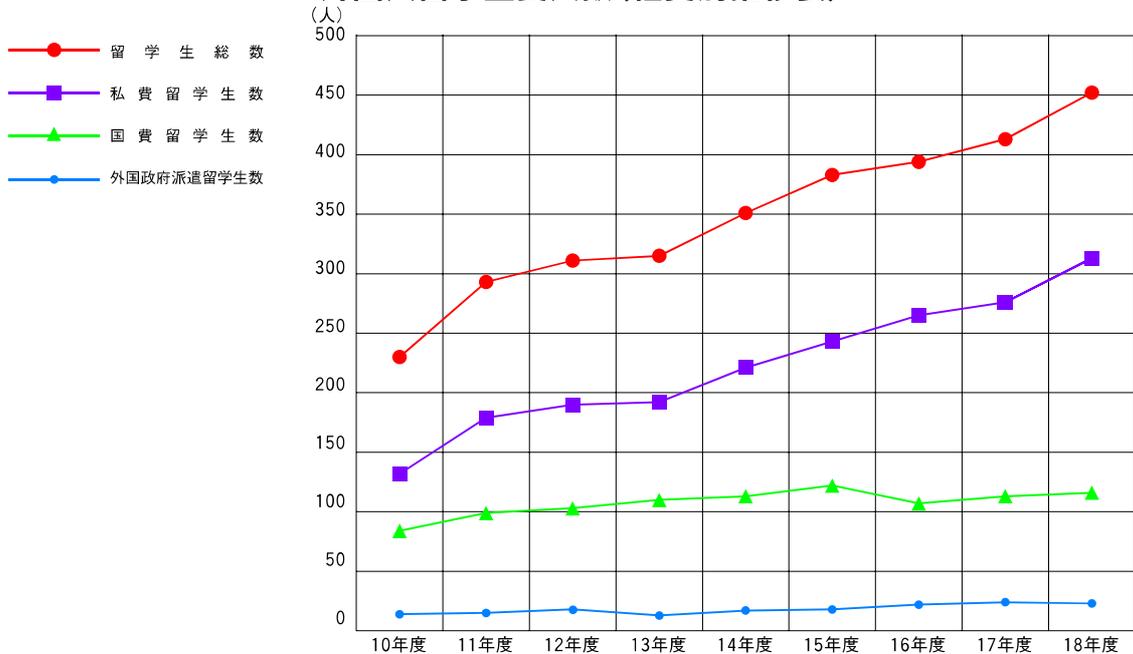
	教育学部 教育学研究科	地域科学部 地域科学研究科	医学部 医学系研究科	工学部 工学系研究科	応用生物科学部 農学部農学研究科	連合農学研究科	連合獣医学研究科	合 計
短期留学推進制度 (奨学金受給者)	1	0	0	0	0	0	0	1
岐阜大学奨学金	1	0	0	0	1	0	0	2
私費留学	4	1	1	0	2	0	0	8
サマースクール	3	1	0	2	5	0	0	11
休学による留学 (語学研修等含む) (協定校以外)	4	5	0	9	0	0	0	18
合 計	13	7	1	11	8	0	0	40

岐阜大学国別外国人留学生数

(2006年12月1日現在)



外国人留学生受入数(経費別推移表)



留学生総数	230	293	311	315	351	383	394	413	452
私費留学生数	132	179	190	192	221	243	265	276	313
国費留学生数	84	99	103	110	113	122	107	113	116
外国政府派遣留学生数	14	15	18	13	17	18	22	24	23

平成17年度国際交流奨学寄附金協力企業団体一覧

イビデン株式会社
株式会社エヌテック
株式会社大垣共立銀行
株式会社後藤孵卵場
株式会社十六銀行
株式会社ジムブレーション
株式会社スギヤマメカレト
河合石灰工業株式会社
岐阜車体工業株式会社
岐阜信用金庫
岐阜精機工業(株)
岐阜南ライオンズクラブ

国際ソロプチミスト岐阜
財団法人井上国際交流基金
財団法人国際調和クラブ
財団法人田口福寿会
サンメッセ株式会社
太平洋工業株式会社
東邦ガス株式会社岐阜支店
日東興産株式会社北方自動車学校
日本耐酸壘工業株式会社
ハートランス株式会社
三田洞自動車学校
ユニオンテック株式会社

5頁に掲載の事業は上記の企業・団体からのご寄附により賄われております。誌上を借りて、厚くお礼申し上げます。(50音順、敬称略)
そのほか、岐阜ソントクラブ、岐阜東ロータリークラブ、都上八幡国際友好協会及び国際交流の輪の黒野の各団体には側面から留学生をサポートいただいております。誌上を借りて厚くお礼申し上げます(50音順、敬称略)

国際交流奨学寄附金協力団体クローズアップ

(財)田口福寿会 様



相互扶助の精神にもとづき、社会福祉の増進、教育、芸術文化、体育、経済、国際交流、地域社会の発展振興等、幅広い分野の助成を通じて、様々な社会貢献活動を行っている団体です。岐阜大学における、「学術交流協定大学との研究者交流助成(派遣・招へい)事業」は、(財)田口福寿会様ご寄附により実施されています。

写真は県内小学校に教育図書を寄贈される田口義加壽会長

岐阜大学国際交流促進のための奨学寄附金のお願い

岐阜大学における国際交流事業は皆様からの御寄附により支えられております。御寄附に関するお問い合わせは岐阜大学学術情報部国際交流課までお願いします。

【岐阜大学国際交流HP】 http://www.gifu-u.ac.jp/sub_menu/inte_exchange.html

【奨学寄附金募集HP】 http://www1.gifu-u.ac.jp/~int_exch/ja/kifukin/index.html

本学への寄附金は、所得税法第78条第2項第2号及び法人税法第37条第4項第2号に基づき、財務大臣が指定した寄附金(昭和40年4月30日大蔵省告示154号)に該当するもので、所得税法上の寄附金控除の対象となる特定寄附金または法人税法上金額損金算入を認められる指定寄附金として財務大臣から指定されています。また、相続、遺贈により財産を取得し、申告期限までに本学に寄附された場合は、租税特別措置法第70条第1項により、相続税は非課税になっています。

編集者：国際交流委員会：ラッセル、ジョン・ゴードン(地域科学部) 山内 亮(応用生物科学部)
留学生交流委員会：原田 信之(教育学部) 三谷 晋(地域科学部)
事務局：黒田 広子(国際交流課) 山田 安男(留学生課)

学術情報部国際交流課 (TEL：058-293-2011、FAX：058-293-3209)
E-mail: gjai05001@jim.gifu-u.ac.jp
ホームページ：http://www.gifu-u.ac.jp/sub_menu/inte_exchange.html

学務部留学生課 (TEL：058-293-2139 FAX：058-293-2143)
E-mail：gjea04001@jim.gifu-u.ac.jp
ホームページ：http://www1.gifu-u.ac.jp/~isc/DIVISION/WRK/ryuugaku.html

本誌は岐阜大学ホームページ上でも公開されています。
(<http://pub.jim.gifu-u.ac.jp/Docushare/dscgi/ds.py/View/Collection-145>)